

2024 年度「見せる試せるラボ」利用申請書（2 次募集）

1. プロジェクト名

さっかくを見る試す遊ぶ学ぶ知覚心理学ラボ

2. プロジェクト代表者

| 代表者氏名 | 所属機関   | 職名 | 専門分野             |
|-------|--------|----|------------------|
| 高橋康介  | 総合心理学部 | 教授 | フィールド認知心理学・知覚心理学 |

◇ プロジェクト代表者における科研費の保有・申請状況と学外資金の申請実績

|                                |                 |                                                                                                      |
|--------------------------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科研費の保有状況                       | <div>有</div> ・無 | 保有種目：基盤 A、変革 A 公募、基盤 C（延長）、その他、分担 5 件                                                                |
| 科研費の新規申請実績<br><br>（直近の新規申請）    | <div>有</div> ・無 | 申請種目：基盤 A / 申請結果： <div>採択</div> ・不採択（ 評価）・申請中<br>申請種目：変革 A（計画班代表） / 申請結果：採択・不採択（ 評価）・ <div>申請中</div> |
| 政府系公募や民間財団等の申請実績<br><br>（有の場合） | <div>有</div> ・無 | 申請先：放送大学教育振興会助成金<br>申請結果：採択・ <div>不採択</div> （ 評価）・申請中                                                |

3. プロジェクト概要および重点項目との関わり（各 200 字程度）

① 取組内容や活動目標

本プロジェクトでは人間の知覚や認識の謎の解明するための学術的錯視研究の拠点形成とともに、サイエンスショー、錯覚展示、錯覚工作・プログラミング教室、オープンファクトリーなどの活動を通じて知覚心理学の研究成果を広くアピールする。このなかで近隣住民を含む多くの人に錯視、錯聴、錯触、だまし絵を見て、触れて、試してもらいながらその楽しさを知ってもらうことで科学的好奇心を育み、来訪者とともに新しいものを創造することを目指す。

② 社会的インパクトのある立命館学園を象徴するような高い個性やポテンシャル

立命館大学は錯覚研究において世界を代表する研究機関の一つである。北岡は錯視研究の世界的第一人者であり、外部メンバーの杉原、小鷹は世界錯視コンテスト常連受賞者である。また国際学術誌 Journal of Illusion を擁し(編集長北岡、編集委員高橋)、錯視研究の発展に貢献している。各自が社会に訴求する錯覚展示、ワークショップなどの活動を進めており、これらが結集した本プロジェクトは社会とつながる次世代研究大学を象徴するものである。

③ 来訪者に対し特別な体験やフィードバック、または動的な知的学術コンテンツを提供することができる点

ラボ内では錯視、錯聴、錯触、だまし絵等の錯覚常設展示を行い、見る、触れる、試せる錯覚(ベンハムの独楽、大きさ重さの錯覚、からだの錯覚、不可能立体など)など他では得難い体験を提供し、体験者の年代に応じた学術的背景の解説を行う。また錯視工作、プログラミング教室を通して体験者自身がダイナミックに錯覚を創造する楽しさを提供することで、知覚心理学を身近に感じてもらいながら体験者の知的好奇心を刺激する。

④ 安定性・継続性が見込まれ、何らかの成果発信やデモンストレーション実践、地域社会と交流することを志向している点

ラボ内では研究拠点形成とともに常設展示、オープンファクトリーなど訪問型ラボを構築する。2022 年度にイオンモール茨木で 2 ヶ月間の無人常設展示に成功しており安定的な稼働が期待できる。また「知覚心理学×街づくり」と連携し、すでに関係を構築している茨木市(都市整備部、公園緑地課等)やイオンモールと協力して街なかの体験型展示や錯覚カフェなどを地域社会との交流を進める。ラボを準備運営拠点とすることで継続的かつ安定的な地域社会貢献が可能となる。

⑤ 多様性（学際的要素や外部機関とのコラボレーション、学生・院生の関わりなど）に関する点

知覚心理学を中心に学内外の認知心理学、人工知能、芸術工学などの研究者が集い学際的錯覚研究の拠点を形成する。オープンファクトリーや錯覚工作、プログラミング教室は学生、院生が主体的に牽引し、地域社会を巻き込んだ研究実践の中で学生の社会的視座を育む。ものづくり企業、芸術家、科学館などと連携し、多様な人々とのコラボレーションを進める。北岡はすでに京友禅や佐世保独楽などの伝統工芸と連携し、知覚心理学の融合を推進している。

⑥ 総合的に見せる試せるラボの「役割・ミッション」の実践が見込める点

すでに説明のとおり、自治体、企業など外部機関との連携、協働(③⑥)のもとで学際性・多様性が高く地域社会を巻き込んだ錯覚研究拠点の形成(④⑤)、体験型企画の継続的・安定的実施による情報発信(①③⑤)、この中で社会的視座を持った学生・院生の育成(②④)など、見せる試せるラボの役割・ミッションを体現したプロジェクトである。

4. 活動計画（予定）

本プロジェクトにおける活動計画の概略を記載ください ※別紙添付可

|      |                                                                                      |      |                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------|
| 4 月  | 入学おめでとうさっかくサイエンスショー                                                                  | 10 月 | 岩倉公園で過ごすさっかくの秋                     |
| 5 月  | いばりつ出展 体験型さっかく展示＋ラボのガイドツアー                                                           | 11 月 | 錯視カフェ開催                            |
| 6 月  | 雨の日は濡れない屋内でさっかくを作ろう！～錯覚工作、錯覚プログラミング体験会～                                              | 12 月 | OIC 学園祭 さっかくサイエンストーク～さっかくしたい皆さんへ～  |
| 7 月  | 暑い日は涼しい屋内で錯覚を作ろう！～錯覚工作、錯覚プログラミング体験会～                                                 | 1 月  | あけましておめでとうさっかくサイエンスショー             |
| 8 月  | オープンキャンパス出展 体験型さっかく展示と錯視の原理(高校生向け)                                                   | 2 月  | 寒い日は暖かい屋内で錯覚を作ろう！～錯覚工作・プログラミング体験会～ |
| 9 月  | Asia Week 出展 体験型さっかく展示～認識の多様性を知る～                                                    | 3 月  | 卒業おめでとうさっかくサイエンスショー                |
| 通年活動 | 錯視に関する研究活動(錯視、錯聴、錯触、だまし絵の新規開発、検証実験) / 錯覚の体験型展示、オープンファクトリー / 各種イベントの準備運営拠点(準備風景も見せる化) |      |                                    |

5. プロジェクトメンバー

代表者を除くプロジェクトメンバーを記載ください（必要に応じて任意で行を付け加えてください） ※別紙添付可

| No. | 氏名・企業名       | 所属     | 職名 | 専門分野・専攻など |
|-----|--------------|--------|----|-----------|
| 1   | 北岡明佳         | 総合心理学部 | 教授 | 知覚心理学     |
| 2   | (以下、別添資料を参照) |        |    |           |
| 3   |              |        |    |           |
| 4   |              |        |    |           |
| 5   |              |        |    |           |

6. 希望する部屋番号

希望する部屋がある場合、該当する部屋番号に第 3 希望まで希望順に「1」～「3」を記載ください（希望なしは「○」）

|             |   |             |             |             |   |   |             |   |           |             |
|-------------|---|-------------|-------------|-------------|---|---|-------------|---|-----------|-------------|
| ①           | ② | ③           | ④           | ⑤           | ⑥ | ⑦ | ⑧           | ⑨ | (1 室)希望なし | (2 室)希望なし   |
| <div></div> |   | <div></div> | <div></div> | <div></div> |   |   | <div></div> |   |           | <div></div> |

※—2 室が必要な場合は、2 室に同じ希望順の数字を記載し、2 室必要となる背景について「8. その他」に記載ください

※—2 室の連続利用ができるのは「①-②」、「⑥-⑦」、「⑧-⑨」の部屋の組合せのみです

7. その他（「6.」関連、もしくはその他連絡事項）

8. 別添資料

これまでの実績・成果や PR 項目など、上記以外の特記事項がある場合は申請フォームにおいてファイル添付してください